

平成 15 年 8 月 1 日

今回は糖尿病性網膜症についてのお話です

血糖値は膵臓の細胞で作られているインスリンというホルモンの働きによって調節されますが、何らかの原因でこのインスリンの分泌が悪くなったり、働きが悪くなると、高血糖状態が続き糖尿病となります。

糖尿病には多くの合併症がありますが、その中でも糖尿病性網膜症、糖尿病性神経症、糖尿病性腎症が特徴的な三大合併症です。その他の合併症としては脳梗塞、心筋梗塞、高血圧、高脂血症、緑内障などがあります。

〔糖尿病性網膜症とは？〕

糖尿病性網膜症では、高血糖による糖代謝異常が原因となって網膜の血管壁が障害されたり、血流が悪くなって網膜に虚血や浮腫が生じます。症状の進展は段階的に単純網膜症、前増殖網膜症、増殖網膜症に分けられ、の段階に至ると、大変もろい新生血管が生じてそこから出血したり、網膜剥離が生じて重度の視力障害を引き起こしたりします。糖尿病性網膜症による失明は後天性失明原因の第一位となっています。

〔治療〕

1．血糖管理

高血糖が網膜症の原因なので、血糖を管理することが網膜症治療の基本となります。食事療法、運動療法、薬物療法（のみぐすり、インスリン）の三つで血糖をコントロールします。

2．薬物療法

止血・血管強化剤（アドナ）... 血管壁を強化し出血を止める作用があります
末梢循環改善薬（カルナクリン、カリクレイン）...細かい血管の循環を改善します

3．手術療法

ある程度進行してしまった網膜症は薬物療法で改善させることは難しいので、眼科的な治療が必要となります。

網膜光凝固術...対象となるのは前増殖性、増殖性網膜症です。最も効果があるのは前増殖性網膜症で、レーザー光を照射して増殖性網膜症への進行を阻止します。

硝子体手術...視力の改善を目的としたもので、高度の硝子体出血や網膜剥離などがその対象です。

治療法の進歩によって、かつては失明に至る危険性の高かった症例の多くに視力低下の予防や障害された視力の回復が期待できるようになりました。しかし、治療の時期を失うとその成功率は低下します。従って、重要なことは治療の最適期を逃さないように定期的な検査を行うことです。

治療	単純網膜症	前増殖網膜症	増殖網膜症
血糖管理			
光凝固術			
硝子体手術			

：必須 ：必要に応じて行う ：施行する場合もある

〔さいごに...〕

糖尿病性網膜症にならないためには、もちろん日頃から健康管理に気を付けて糖尿病にかからなければよいわけです。しかし、もしも糖尿病にかかってしまったら...？ その時は合併症のチェックの一つとして網膜症の有無を調べましょう。網膜症が発見されたら、定期的な眼底検査を受け治療の最適な時期を逃さないようにしましょう。糖尿病性網膜症は治療の時期を逃すと失明にまで至るかもしれない病気です。まだ目が見えるからとたかをくくって放っておかず適切な治療を受けるよう心がけましょう。